

# なんりよう 南稜通信

第1号

平成 22 年  
5 月発行  
長野南高校

問い合わせ先

教頭 羽場 謙一  
 庶務 竹内祐美子  
 TEL026-284-8850  
 (学校代表)  
 TEL026-284-8851  
 (教務室)

## 祝 入学式



### 入学おめでとう

学校長 茶銅和統

今年も長野南高校に二百三十三名の  
 新入生が入学しました。義務教育を終  
 え、なお向学心に燃えて高校生となつ  
 た人たちに、私は「一粒の米」という  
 お話を入学式でしました。  
 江戸時代、新井白石という人がいま  
 した。彼の父新井正済(まさなり)は、  
 白石が幼い頃に、戒めを込めてこんな  
 話をしています。

## 『宝の石』になるように

「一粒だけ米びつから米をとっても、減った  
 とは分らない。しかし、一年、二年続ける  
 と、増えたか減ったかが分かってくる。学問  
 も同じである。一日勉強したから利口になる  
 わけでない。一日怠ったから、愚かになるわ  
 けではない。しかし、一年、二年と続けば必  
 ず変わってくる」と言い、努力を続け  
 けることの大切さ、努力をしないこ  
 との愚かさを説いたと言います。高  
 校生といえども、未だ磨かれぬ路傍  
 (ろぼう)の石と同じです。高い志  
 と日々の努力により、宝の石になる  
 よう行動して欲しいと思います。

また、良き人間関係づくりをして  
 欲しいということも話しました。私  
 たちは、社会の中で多くの人と関係  
 を持ちながら生きています。ですがか  
 ら、他人も自分と同じように、考え  
 行動し、同じように喜びや悲しみな  
 ど、様々な感情を抱いていることに  
 気付くべきです。そのことにより、  
 周囲の人たちへの理解が深まり、苦  
 楽を共有し、お互いの人権を尊重す  
 ることができるようになります。  
 高校生としての志と日々の努力、  
 そして人間関係の大切さを肝(きも)に銘じ  
 て、学習への意欲を駆り立て、学校生活を充  
 実させて欲しいと願っています。

## 信頼される学校に 一学年 の目標

学年代表として、生徒の皆さん・保護者の皆さんに、次のようなお話をさせていただきました。  
 第一に「死なないうでください。生きていてただけでたいしたもんだ」、第二に「ちゃんと学校に来て、楽しく過ごして欲しい」、第三に「自分のいいところ、他人のいいところを見つけて欲しい」ということです。その上で集団生活におけるルールの順守、学力の向上、さらには地域学習等を通して地域の方々から信頼される学校を目指したいと考えています。今後ともよろしく願います。

## 歓迎会・クラブ発表

平成二十二年度の最初の生徒会行事である「対面式」・「新入生歓迎会」を、四月八日(木)に開催しました。この日が二・三年生との初めての対面ということもあり、新入生は緊張した面持ちで入場しました。生徒会をあげてクラブ活動と生徒会に活発に取り組んでいきたいと思えます。地域の皆様、ぜひ『長野南高校』の活躍を期待してください。

## 公開授業のお知らせ

期日 平成二十二年 五月二十二日(土)  
 日程 全日公開です(何時からでも授業を  
 ご覧いただけます)

- 一時限目 八時四十五分～九時三十五分
- 二時限目 九時四十五分～十時三十五分
- 三時限目 十時四十五分～十一時三十五分
- 四時限目 十二時三十五分～十三時二十五分

\*保護者の皆様には、十三時四十分からPTA総会が予定されております。  
 \*スリッパをご持参ください。

# 基礎学力の定着へ

進路指  
導から

高校生活三年間の中で、生徒達はクラス、授業、クラブ、生徒会活動など様々な取り組みの中で大きく成長していきま。そして、高校卒業時の進路選択は、一人ひとりにとって人生の大きな分岐点となります。全国的に大学進学率が50%を超え、同時に定員割れの学校も50%を超え、就職も厳しい中で、本校では「入れる学校」ではなく、「入りたい学校」に進学できるようにと、基礎学力の定着に向け、補習の充実(2・3年生合同で平日放課後と土曜日に行います。また途中からの参加もしやすいように、年間を何期かに分けて実施します。長期休業中は1年生も実施します)。家庭学習調査の実施(学校全体としての取り組みは定期考査前の2週間になりますが、学年によっては毎日行い、学習習慣の定着を確認しています)。学習合宿(2泊3日、講義や自習でひたすら学習することで、やればできることを実感する)など様々な取り組みをしています。

## 学習合宿 二・三年の七十人が参加

三月二十九日～三十一日の三日間、黒姫のホテルで、新二年・新三年合同の学習合宿が行われました。約七十名の生徒が英語・数学・国語を中心に、集中的に学習活動に励みました。朝六時半の自主学習に始まり、九十分単位の講義・演習、さらには夜間に約一時間半の自主学習と、勉強漬けの三日間を送り、充実感を味わって帰った生徒が大部分であったように思われます。たった三日間ではありましたが、きつい勉強をやりぬいた自信を、今後の学習活動につなげてくれることを切に願っています。

## 勉強への意欲増す

生徒の  
感想

三日間、勉強漬けで、初めてこんなに勉強し、以前より集中力がついたと思う。今回の合宿で培ったことを生かして、志望校に合格したいです。  
(Aさん)

こうやって友だちと一緒に頑張って勉強することは、競争意識も芽生えるが、協力して問題を解いたりすることで勉強への意欲が増したと感じた。とても良い経験だった。また、目標を達成するには、継続力が大切だということも学んだ。(Bさん)  
これからは、毎日少しずつ勉強する時間を増やして、短時間でも集中できるように心がけていきたい。そして、入試までの時間を無駄にせずにもっと勉強に対する意欲を高めて、自分にできる最大限の努力をできるように頑張りたい。(Cさん)

## 長野マラソンボランティア



ゴール地点でタオルをかける生徒たち

昨年続き、四月十八日(日)、長野マラソンのボランティアに生徒会を中心に、有志二十一名が参加し、フィニッシュ会場の南長野運動公園で大きな声で「お疲れ様でした」と声をかけながら、完走者にタオルを渡しました。暑い中でしたが、完走した方々は笑顔でタオルを受け取り、とてもうれしく感じました。

またゲストとして来場していた高橋尚子さんの走りも間近で見ることができ、充実した一日でした。

## 長野マラソンに参加して

教諭 高木秀夫

長野マラソンの声援は凄い。雑誌「ランナーズ」で全国ナンバー1に選ばれたこともある。地元の人達の暖かい声援、ボランティア活動に携わる人達。こうした沢山の人の支えがあって成り立っている。30kmをすぎて辛い時、こうした声援を力に変えて走る事ができる。一步一步ゴールを目指して頑張ることができ

る。勿論、マラソンは自分との戦いだ。そして自分が生きているという充実感を最も感じさせてくれるスポーツだ。そして何より家族や、マラソンに携わる沢山の人達に感謝できるスポーツでもある。長野南高校の生徒諸君もゴール地点でボランティア活動に参加していた。「完走おめでとうございます」この言葉で「来年も頑張ろう」と思う。人生そのものもマラソンである。辛いこと、苦しいこと様々な困難を乗り越えていくからこそ、生きている充実感を感じることができると思う。だから僕はこれからも走り続ける。

## 生徒会長から

松本 真美 さん

長野南高校は、部活動がとても盛んです。特に運動部は毎日厳しく、辛い練習をやりながら仲間と共に青春の汗を流しています。県大会、全国大会出場を目標にどの部活も頑張っています。また、勉強面では放課後、補習などを行い、一人ひとりの希望する志望校進学に向けて一生懸命に勉強しています。去年の先輩たちもそうやって、多くの希望校に合格しました。そんな忙しい中、今年一年の最大イベントである南稜祭を思い出に残る文化祭にしようと全校生徒が一丸となって取り組んでいます。長野南高校は、楽しくて明るい元気のいい学校です。南稜祭や体験入学も楽しいと思うのでぜひきてください。